

300	古墳時代前期	大和に前方後円墳が現れる
		県下で最古の古墳とされる山谷古墳(前方後円墳)が造営される(①289)
		前方後円墳の菖蒲塚古墳が造営される(①298)
		全国的に斉一性の強い土器が出現する(①308)(孤崎遺跡)
400	中期	近畿地方を中心に巨大古墳が造営される
		硬玉製玉類・滑石製品がつくられる(①311・319)(大角地・田伏玉作遺跡)
		南魚沼地方に飯綱山・蟻子山などの初期群集墳である円墳群が造営される(①335)
		飯綱山10号墳に鉄製短甲・鉄鉾等が副葬される(①339)
		須恵器がもたらされる(①303・311・315)
500	後期	頸城・南魚沼両地方に横穴式石室を備えた群集墳が出現(①343・348), 南山1号墳からは鉄鏃が, 吉里古墳群の万貝古墳からは鉄製轡金具が出土し, 軍事的集団の存在が想定される(①344・345)
		(梨ノ木・谷内林・小丸山・吉里・南山・水科・宮口・真野古墳群)
		鉄製農具が普及する(①356)(馬場上遺跡・橘古墳)
		竪穴住居内に竈が設けられる(①312)(山畑・馬場上遺跡)
		佐渡で土器製塩が行われる(①278・356・741)
	欽明5.12.	佐渡島北御名部碕岸に肅慎人が来る[[2]13]
	欽明7.	仏教が正式に伝わる
	崇峻2. 7. 1	阿倍臣を北陸道に遣し, 越等を視察させる(①372)
		7 北陸・東海・東山三道諸国の国境を定める[[2]18]